

企業ニュース 乃村工藝社

(東証1部：9716) <http://www.nomurakougei.co.jp/ir/>

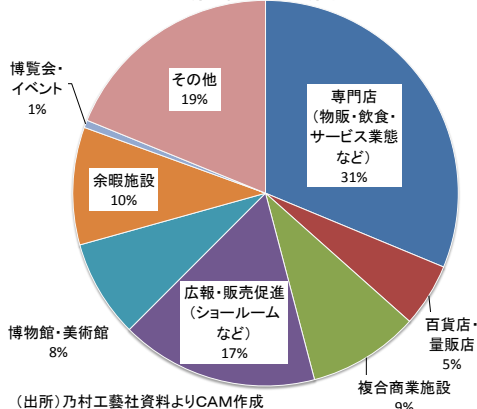
作成者：荒木晶子

ディスプレイ事業の国内最大手

1892年創業。商業施設や博物館などの各種施設やイベントの内装・展示を手掛ける。調査・企画からデザイン・設計、製作・施工、運営管理までを一括して行う。1954年の第1回東京モーターショーや1970年の大阪万博の政府館・主要展示館など、大型案件を手掛けた実績がある。

2017～2019年度の中期経営計画では、最終年度に売上高1,400億円、営業利益95億円を目指す。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、商業施設や空港・駅の整備などの都市再開発、宿泊施設の新装・改装などに関する受注増が見込まれる。また、働き方改革を背景としたオフィスの環境整備需要も増えており、良好な事業環境が継続するとみられる。

◇ディスプレイ事業の分野別売上高構成比 (19.2期・第2四半期累計)



上期は粗利益率の改善により営業増益を達成

19.2期・第2四半期累計(3-8月)の連結業績は、売上高が522億円、前年同期比1%減、営業利益が35億円、同2%増。計画に対して、売上高は18億円の未達、営業利益は計画線で着地した。分野別では、専門店や複合商業施設が前年同期比で減収だった一方、オフィスの改装を含むその他が同80%増収と大幅に伸長した。粗利益率は21.1%、同1.6ポイント改善。施工管理の徹底が寄与した。受注残高は551億円、同29%増と順調に積み上がり、過去最高となった。

19.2期の通期会社計画は、売上高が1,200億円、前期比4%増、営業利益が83億円、同2%増。専門店や複合商業施設において下期に大型プロジェクトの引き渡しを控えており、下期偏重の決算となる見込み。豊富な受注残高の消化により、売上高は計画達成確度が高まろう。また、粗利益率は前期比横ばいの20%を見込むが、受注・施工管理の徹底など採算改善の取り組みを継続しており、第2四半期の実績を踏まえると保守的な計画であろう。

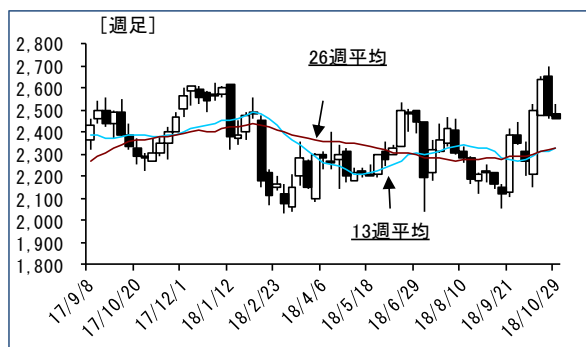
【株価動向・投資判断】

19.2期の年間配当金は1株当たり2円増配の47円を予定し、7期連続の増配を目指す。積極的な株主還元姿勢が株価を下支えしよう。

<9716 乃村工藝社 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.2	115,561 (7)	7,608 (26)	7,809 (26)	5,056 (32)	90.9	記40.00
18.2	115,841 (0)	8,171 (7)	8,373 (7)	5,638 (12)	101.4	45.00
19.2 予	120,000 (4)	8,300 (2)	8,500 (2)	5,900 (5)	106.1	47.00



主要株価指標	(売買単位：100株)
株価(2018/10/29)	2,463 円
年初来高値(高値日)	2,696 円(18/10/24)
同 安値(安値日)	2,035 円(18/3/2)
予想 P E R (19.2 予)	23.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	709.2 円
P B R	3.47 倍
予想配当利回り	1.91 %
(1株当たり配当金47.00円)	
R O E (18.2)	15.1 %
発行済み株式数	5,995 万株